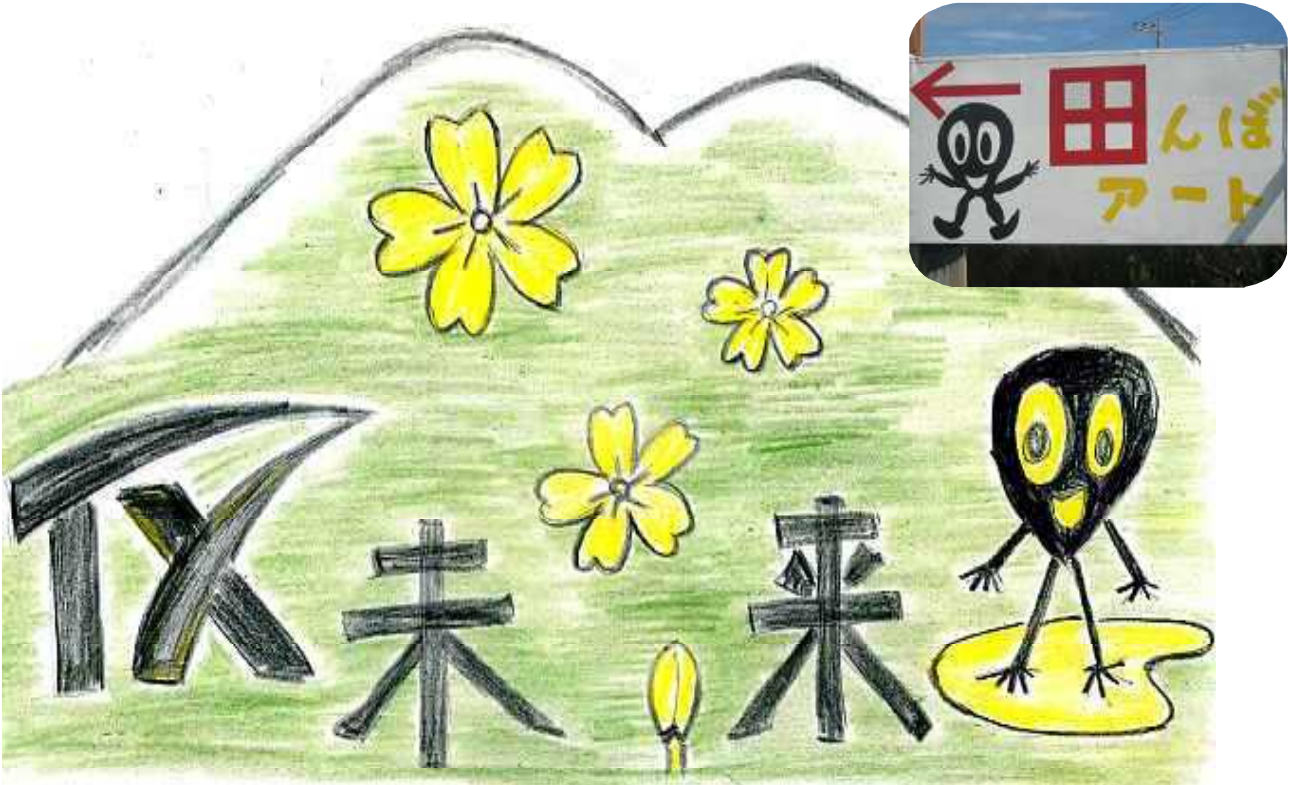


第26回 全国小中学生作品コンクール

社会科部門 受賞作品紹介

中央出版(株)社長賞

つくばみらいの 田んぼアート



つくばみらい市立谷井田小学校

5年 高橋 沙彩 西村 晴香
中山 千聡 手嶋 帆南

1 研究テーマ

つくばみらいの田んぼアート

- 田んぼアートってなんだろう? -

2 研究をはじめたきっかけ

「みなさんは、田んぼアートを見たことがありますか？」

田んぼアートは、わたしたちの住むつくばみらい市にあります。つくば市と東京の秋葉原を結ぶ TX（つくばエクスプレス）で、東京方面に向かって左側に見ることができます。わたしたちが田んぼアートについて研究をはじめたきっかけは、社会科で米作りを学習した時に田んぼアートの写真を見たことです。それまでは、田んぼはお米を作る場所という考えしかありませんでした。だから、教室で初めて田んぼアートの写真を見た時には、「これはいったいなんだろう？」ととても不思議に思いました。教室でみんなで話し合っても、「だれかが田んぼに落書きをしたんじゃないか。」とか、「なんかのせん伝のためにあるんじゃないか。」という意見が多くでただけで解決しませんでした。そこで、わたしたちの力で田んぼアートの不思議を解決しようと思い、この研究をはじめることになりました。

3 研究のねらい

だれが、なんのために田んぼアートを作っているかについて調べ、田んぼアートの意味や働きについてわかったことや考えたことをまとめる。

4 研究の計画と方法

- (1) 田んぼアートについての情報を集める。また、調べ始めた5月からの田んぼのようすを記録する。
- (2) 田んぼアートを作っている人から、田んぼアートについての聞き取り調査をする。
- (3) 田んぼアートがどれくらい知られているかを調べるために、谷井田小学校5・6年生とお家の人にアンケート調査をする。また、TX（つくばエクスプレス）のみらい平駅を利用する人にインタビュー調査をする。
- (4) 日本全国の田んぼアートについての情報を集め、つくばみらい市の田んぼアートと比べてみる。

5 研究の内容

(1) 田んぼアートについての調査

田んぼアートってどこにあるの？

田んぼアートは、茨城県の南部つくばみらい市下小目地区にあります。つくば市方面から TX（つくばエクスプレス）の上り電車に乗ると、みらい平駅から守谷駅の間に行き方向の左側に見ることができます。この場所で、初めて田んぼアートが作られたのは、TX（つくばエクスプレス）が走り始めた年と同じ平成17年です。その時は、まだつくばみらい市はなく、筑波郡谷和原村でした。旧谷和原村は、お隣にあった旧伊奈町と平成18年3月27日に合併し、つくばみらい市となりました。

平成17年の田んぼアート



平成18年の田んぼアート



デザインについて

平成17年と平成18年の田んぼアートの写真を比べてみると、「やわら」と「つくばみらい」という文字がちがっています。その他にもにている絵や色のちがいがあることに気づいたので、デザインについて考えてみることにしました。

平成17年と平成18年の田んぼアートでデザインのにているところ

- ・筑波山がえがかれている。
- ・谷和原村とつくばみらい市という村や市の名前が入っている。
- ・TX(つくばエクスプレス)がえがかれている。
- ・キャラクターがえがかれている。

平成17年と平成18年の田んぼアートでデザインのちがうところ

平成17年の田んぼアート	平成18年の田んぼアート
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるせの会という文字がある。 ・ふるせの会という文字の横のキャラクターがスピーフィとはちがう。 ・黒,黄,緑,灰色が使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくばみらい市のマークがある ・黒,黄,緑色が使われている。 ・キャラクターが変わっている。

デザインがにているところやちがいから、いくつかの疑問がでてきました。そこで、田んぼアートを作っている古瀬の会の人に聞いてみようということになりました。古瀬の会のホームページにある掲示板を使って、事務局の人に質問してみました。

わたしたちからの質問と古瀬の会事務局の人の答え

質問 村や市の名前が入っているということは、村や市も関係しているのでしょうか？ 田んぼアートを作る費用を出したりしてもらったりしているのでしょうか？

答え 「やわら」は、合併で無くなる私たちの住む村の名前をなつかしみ表しました。「つくばみらい」は、新しい市の名前を広くアピールする意味で作りました。費用ですが、合併した平成18年度から市より活動資金の一部を補助してもらっています。

質問 田んぼアートに TX(つくばエクスプレス) やスピーフィがえがかれているということは、TX(つくばエクスプレス)の会社のせん伝なのでしょうか？

答え TX(つくばエクスプレス)の会社のせん伝ではありません。TX(つくばエクスプレス)の開業をお祝いする目的で、車窓から見ることのできる田んぼで行っています。TX(つくばエクスプレス)開業を歓迎し、稲作地帯のつくばみらい市をアピールしています。それから、キャラクターは TX(つくばエクスプレス)のスピーフィではありません。

質問 ふるせの会という文字の横のキャラクターは、なんですか？

答え これは、「愛情の村」というキャラクターです。ろう学校の中学1年生のアイデアです。頭が「お米」の形で、体が「ハート」の形をしています。もうひとつのキャラクターは、(社)農村環境整備センターが行っている「田んぼの学校」のロゴマーク「タンボウ君」です。「田んぼの学校」は、全国の水路やため池・水田などで体験活動をしている個人や団体を支援する組織です。

質問 田んぼアートは、稲にどのように色をつけているのですか？

答え 田んぼアートには、ふつうの稲の緑色と葉の色が黄色・紫色になる品種や穂が赤色・白色の色の品種の古代米を使っています。稲や穂の色がちがう種類を考えて植えて絵をえがいています。赤や白の稲の穂は、2週間ぐらいの期間しか見ることができません。

質問 田んぼアートのデザインは、だれが考えているのですか？また、デザインするとき気をつけていることは、どのようなことですか？

答え 田んぼアートのデザインは、古瀬の会のみんなで何回も打ち合わせをしています。つくばみらい市の特徴などがわかりやすく、夢のあるデザインになるように考えています。見る場所に近い手前側に低い稲を植え、色のちがいがよく現れるように心がけています。

平成19年の田んぼアートのように

5月「田植えです」



7月「色がはっきりしてきました」



8月「案山子(かかし)を作りました」



9月「赤い穂が出てきました」



(2) 田んぼアートを作っている人たちへの聞き取り調査

古瀬の会について

田んぼアートを作っている方々のグループは、正式には「古瀬の自然と文化を守る会」といいます。この会は、平成15年につくられました。活動の目的は、つくばみらい市寺畑にある古瀬地域の自然や文化などを守り、都会の人々や農村の人々との交流を通じて人と人とのつながりを大切にし、地域をよくしていくことが目的だそうです。古瀬の会は「NPO(エヌ・ピー・オー)法人」というグループで、日本語では「特定非営利活動法人(とくていひえいりかつどうほうじん)」というそうです。かんたんに説明すると、お金をかせぐためじゃなくて、みんなの住んでいる社会のためにいろんな活動をする会社のようなものだそうです。

聞き取り調査

古瀬の会の人たちは、なぜ田んぼアートを作ろうと思ったのか、また、できあがるまでの苦労などについて聞き取り調査をしました。



質問 古瀬の会の人たちは、なぜ田んぼアートを作ろうと思ったのですか？

答え お米を作るだけではおもしろくないので、水田を利用して何か楽しいことをしようと思ったからです。また、つくばみらい市をたくさんの人に知ってもらい、地域を元気にするためです。

質問 田んぼアートが完成するまでには、どのような苦労がありましたか？

答え デザインの通りに、苗をきれいに植えなければなりません。苗を植える前に田んぼにしるしをつける作業が大変です。せっかく田んぼアートをするのだから、見てもらえるための場所を確保するのも苦労しました。特に、TX（つくばエクスプレス）から見える場所を探すのがむずかしかったです。

その他には、えがく絵のデザインを考えたり、苗を植えたりすること自体も大変な苦労です。田植えや稲刈りなどには、100人ぐらいの人が必要なので、ボランティアの人たちを集めるのにも努力が必要でした。

質問 田んぼアートを作ってみて、よかったと思うことはどんなことですか？

答え 都会の人や農家をやっていない人などと交流ができ、多くの人と知り合うことができました。その他には、テレビ・新聞などに取り上げてもらい古瀬の会という名前が多くの人に知ってもらえたことです。

質問 古瀬の会の人たちは、田んぼアート以外にどのような活動をしているのですか？

答え

- ・東京都葛飾区の人たちと交流イベントをして仲よく遊ぶこと
- ・田舎の文化や伝統がなくなっているのを、それらを子どもたちに伝えていくこと（魚の取り方や昔の農作業の方法など）
- ・田んぼや林や用水路に生きている生き物が少なくなっているから、それらを守ったり増やしたりしていくこと
- ・地元の小学校の稲作体験への協力など

質問 古瀬の会の人たちの願いは何ですか？

答え 農家でない人たちに、田んぼやそこに
いる生き物のことなどを知ってもらい、
おとなも子どもも田んぼに親しんでほし
い。自然に興味をもち大切にしていって
ほしいと思っています。

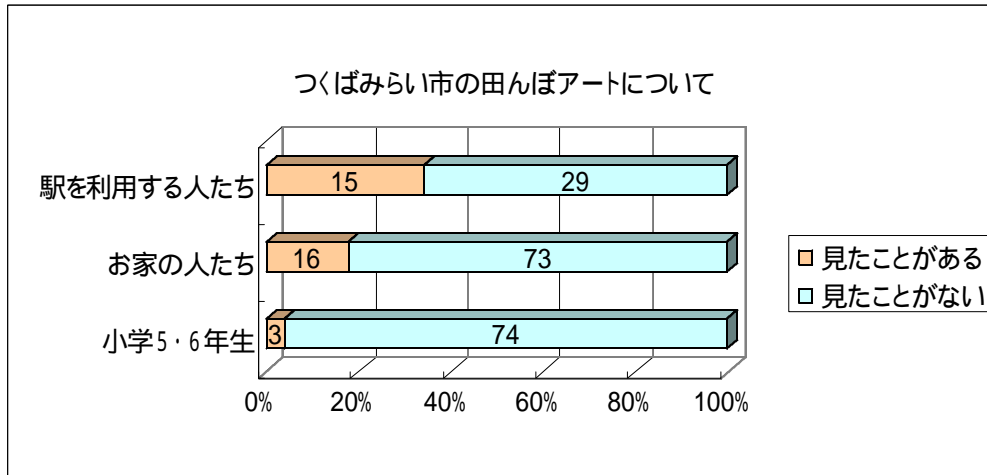


聞き取り調査から考えたこと

古瀬の会の小菅さんと須田さんからお話を聞いて、古瀬の会の人たちは自分たちが住んでいる地域のことを大切にしようと思っていることがよく分かりました。田んぼアートを作る目的に「地域を元気にする」というお話がありました。「地域を元気にする」ということは、たくさんの方がわたしたちのつくばみらい市に来ることだと思います。そして、たくさんの方に来てもらうようにするには、自然（田んぼ・生き物）や田舎の文化や伝統を大切にすることだということが分かりました。たくさんの方がつくばみらい市に来れば、大勢の人と交流することができます。古瀬の会の人たちは、そこに楽しさを感じているのではないかと思います。田んぼアートを作るにはたくさんの苦労もあるようですが、古瀬の会の人たちはそれも楽しんでいるようでした。

(3) 田んぼアートをどれぐらいの人が見たことがあるかについての調査

わたしたちは、社会科の時間に田んぼアートの写真を見るまでは田んぼアートのことについて何も知りませんでした。そこで、谷井田小学校の5・6年生には田んぼアートを見たことがある人がどれくらいいるのか調べてみることにしました。また、小学生だけではなくお家の人たちにもアンケートを行いました。



お家の人たちは、89人中16人が実際に田んぼアートを「見たことがある」と答えています。また、見たことはないが市の広報や新聞などで田んぼアートをやっていることを「知っている」と答えた人が18人いました。小学校5・6年生は、実際に田んぼアートを見たことがある人が74人中3人しかいませんでした。また、市内に田んぼアートがあることを知っている人も3人だけでした。わたしたちは、田んぼアートについて知らない人が多いことに驚きました。そこで、TX(つくばエクスプレス)を利用している人なら、ほとんどの人が見たことがあるだろうと予想し、TX(つくばエクスプレス)の



みらい平駅前でインタビューしてみることにしました。駅を利用する人が少なく、電車が来たときしか人がいないのでインタビューするのに苦労しました。また、電車を降りた人はインタビューに協力してくれる人が多かったのですが、これから電車に乗ろうとする人は「時間がないから」という理由で断る人が多かったです。でも、電車に乗る人の中にも親切にインタビューに答えてくれる人が多くいたのがうれしかったです。しかし、残念ながら田んぼアートを「見たことがある」と答えてくれた人は、44人中15人しかいませんでした。インタビューに答えてくれたおばあさんは、「こんなのあるって知らなかったわ。どこにあるの？電車から見えるの？もっとみんなに知らせなきゃだめよね。」とやさしく話しかけてくれました。わたしたちは、自分たちの住んでいる地域にある田んぼアートや古瀬の会の人たちの活動を、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと考えました。そこで、田んぼアートの場所や古瀬の会の活動を紹介するチラシを夏祭りの時に配りました。



(4) 日本の田んぼアート比べ

つくばみらい市にある田んぼアートを調べていくうちに、田んぼアートはつくばみらい市以外にもいくつかあることがわかりました。そこで、わたしたちは他の地域の田んぼアートについても調べてみることにしました。つくばみらい市の田んぼアートを他の田んぼアートと比べてみることで、新しい発見があるのではないかと考えました。比べる田んぼアートは、青森県田舎館村、山形県米沢市、愛知県安城市とわたしたちのつくばみらい市にある田んぼアートです。調べる方法は、まず電話で協力をお願いしてからファックスで質問を送りました。それぞれの担当の方からもファックスで質問に対する回答を送ってもらいました。どの担当者の方も親切に教えてくれました。ご協力ありがとうございました。

	つくばみらい市	青森県田舎館村	山形県米沢市	愛知県安城市
いつから	平成17年から	平成5年から	平成18年から	平成19年から (今年から)
だれが	NPO法人「古瀬の自然と文化を守る会」	田舎館村役場の職員	田んぼアート米づくり体験事業推進協議会	農家の中から希望者が集まってつくったグループ
田植えや稲刈りは	ボランティアなど約100人で行う。 お昼は、田んぼで取れたお米で作ったおにぎりをみんなで食べる。	ボランティアを募集する。 田植え700人ぐらい、稲刈りは900人から1000人ぐらい。午前中で終了し、田んぼで取れたお米のおにぎり2個と豚汁を食べる。	参加者を募集して行う。 田植え100人、稲刈り150人 大人1500円、子供1000円の参加費が必要。 昼食と収穫したお米のプレゼント付き。	農家・市職員・JAの50人と一般参加者50人の合計100人で田植えを行った。
何のため	・自分たちの住む地域を広く知ってもらうため ・多くの人々と田んぼをとおして交流するため	・村おこしのため ・弥生人の足跡が残る垂柳遺跡が田舎館村で発見されたので、米にこだわったイベントをするため	・地元で生産する美味しいお米のPRのため ・新しい観光資源を作ること ・地元の人と他の地域の人との交流のため	・「農業」や「食」について、考えてもらうきっかけをつくるため

	つくばみらい市	青森県田舎館村	山形県米沢市	愛知県安城市
今までにえがいた絵	H17「筑波山・TX・愛情の村・タンボウ君・村名」 H18「筑波山・TX・タンボウ君・市名・市のマーク」 H19「筑波山・TX・タンボウ君市の花(桜)」	H13「岩木山と稲文字」 H14「岩木山に月」 H15「モナリザ」 H16「棟方志功の絵」 H17「写楽と歌麿の絵」 H18「俵屋宗達の絵」 H19「葛飾北斎の絵」	H18「小野小町と蛭」 H19「上杉謙信と武田信玄の一騎打ちと蛭」	H19「かかし」
稲の種類と数	H19は5種類 紫稲 黄稲 白稲 赤米 日本晴	H18・19は4種類の稲です。 紫稲，黄稲 つがるロマン (青森のお米) 紅都(静岡から取り寄せたもち米)	H19は4種類 (緑)はえぬき (黄)古代米 (紫)古代米 (赤)古代米	3種類 (緑)若水という名前の酒米 (黄)・(紫)は，田舎館村から分けてもらった米
展望台など	TX(つくばエクスプレス)の車窓から 手作りの見晴台から	役場の建物6階の天守閣から	保養施設の敷地内の展望台から	田んぼの近くの堤防から(高さ3m)
その他	今年は，もう1ヶ所TX(つくばエクスプレス)から見ることができる場所に田んぼアートを作った。	みんなが協力してやっていることが一番。 自分の仕事が終わってから，遅くまで田んぼアートづくりをしている。	絵の題材は，米沢市に関わりのあるものになっている。	初めての取り組みなので，まだ特色は出せていない。 将来的には，みんなが楽しめるような工夫をしていきたい。

5 研究してわかったこと

わたしたちは、この研究をとおしてわかったことについて話し合いました。そして、田んぼアートについて次の4つのキーワードを選びました。

地域を元気に（村おこし） ・ 交流 ・ 自然 ・ 楽しみ

田んぼアートは、どれも米作りがさかんな地域で行われていることがわかりました。米作りはさかんだけれども、人があまり集まらない地域を元気にするために田んぼアートに取り組んでいるのだと思います。そうしたさみしい地域を元気にするイベントや取り組みを「村おこし」ということも知ることができました。人が多く集まれば、人と人との交流がさかんになります。都会に住んでいる人は、田舎に来ることによって都会にはない自然を楽しむことができます。田んぼアートを作っている人たちは、たくさんの苦勞があっても田んぼアート作りを楽しんでいるようです。田んぼアートのことを調べる前は、「田んぼはお米を作る場所」という考えしかありませんでした。でも、今は田んぼがいろいろな働きをしていることに気づきました。「地域を元気にする働き」、「人と人がふれ合ったり、交流する働き」、「自然について学んだり、大切にしていこうということに気づかせてくれる働き」、「多くの人を楽しませてくれる働き」などです。わたしたちが住むつくばみらい市には、たくさんの田んぼがあります。これから、もっと田んぼを大切にしていこうと思います。また、田んぼアートや田んぼのよさをたくさんの人に知ってもらえるように、わたしたちにできる活動をしていきたいと思っています。

調査に協力してくれた人たち

- ・ 古瀬の自然と文化を守る会（小菅さん・須田さん）
- ・ 青森県田舎館村役場産業振興課（中山さん）
- ・ 山形県米沢市産業部商工観光課観光物産係（堀内さん）
- ・ あいち中央農業協同組合農業振興部（野村さん）
- ・ 谷井田小学校5年2組と6年生児童，お家の人たち
- ・ 平成19年8月8日午前中に、みらい平駅を利用したお客さん

参考にしたインターネットのサイト

- ・ 古瀬の会ホームページ <http://furuseno.fureai.or.jp/>
- ・ NPOの勉強室 <http://www.kids-npo.org/>
- ・ 田舎館村公式ホームページ <http://www.vill.inakadate.aomori.jp/>
- ・ 米沢市公式ホームページ <http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/shisei/norin/suidenart.htm>
- ・ 安城市役所経済環境部農務課 <http://www.city.anjo.aichi.jp/kakuka/nomu/tanboyouryou.html>

この研究で使った写真には、自分たちで撮影したものと古瀬の会のホームページからダウンロードしたのがあります。ダウンロードした写真は、この研究のために使ってもよいという許可をいただいています。

研究をはじめたきっかけ
 「みなさんは、田んぼアートを見たことがありますか？」
 田んぼアートは、わたしたちの住むつくばみらい市にあります。つくば市と東京の秋葉原を結ぶTX(つくばエクスプレス)で、東京方面に向かって左側に見ることができます。わたしたちが田んぼアートについて研究をはじめたきっかけは、社会科で米作りを学習した時に田んぼアートの写真を見たことです。それまでは、田んぼはお米を作る場所という考えしかありませんでした。だから、教室で初めて田んぼアートの写真を見た時には、「これはいったいなんだろう?」ととても不思議に思いました。教室でみんなで話し合っても、「だれかが田んぼに落書きをしたんじゃないか。」とか、「なんかのせん伝のためにあるんじゃないか。」という意見が多くでただけで解決しませんでした。
 そこで、わたしたちの力で田んぼアートの不思議を解決しようと思い、この研究をはじめることになりました。

研究の計画と方法
 (1) 田んぼアートについての情報を集める。
 (2) 田んぼアートを作っている人から、田んぼアートについての聞き取り調査をする。
 (3) 田んぼアートがどれくらい知られているかを調べるために、谷井田小学校5・6年生とお家の人にアンケート調査をする。
 また、TX(つくばエクスプレス)のみらい平駅を利用する人にインタビュー調査をする。
 (4) 日本全国の田んぼアートについての情報を集め、つくばみらい市の田んぼアートと比べてみる。



平成18年の田んぼアート

まとめ
 田んぼアートは、米作りはさかんだけれども人があまり集まらない地域を元気にするための取組であることがわかりました。そうした地域を元気にするイベントや取組を「村おこし」と言います。
 人が多く集まれば、人と人との交流がさかんになります。都会に住んでいる人は、田舎に来ることによって都会にはない自然を楽しむことができます。田んぼアートを作っている人たちは、たくさんの苦勞があっても田んぼアート作りを楽しんでいるようです。田んぼアートのことを調べる前は、「田んぼはお米を作る場所」という考えしかありませんでした。でも、今は田んぼがいろいろな働きをしていることに気づきました。「地域を元気にする働き」、「人と人がふれ合ったり、交流する働き」、「自然について学んだり、大切にしていこうということに気づかせてくれる働き」、「多くの人を楽しませてくれる働き」などです。
 わたしたちが住むつくばみらい市には、たくさんの田んぼがあります。これから、もっと田んぼを大切にしていこうと思います。
 また、田んぼアートや田んぼのよさをたくさんの人に知ってもらえるように、わたしたちにできる活動をしていきたいと思っています。

平成19年度の田んぼアートのようす



5月 「田植えです」



7月「色ができました」



8月 「かかしです」



9月「穂ができました」

田んぼアートを作っている「古瀬の会」の方への聞き取り調査とPR活動のようす

